

長期運転に向けた照射脆化管理に対する産業界としての取り組み

これまでの産業界における照射脆化管理および2022年3月発刊のATENAレポート「安全な長期運転に向けた経年劣化に関する知見拡充レポート」を踏まえて、今後の安全な長期運転に向けて、取り組むべき事項は以下の通り。

①照射脆化評価手法の継続的な高度化（JEAC4201、4206）

照射脆化評価手法について継続的に最新知見や技術を取り込み、規格の高度化を進める必要がある。

②監視試験片再生等（JEAC4201、4216）

今後のさらなる長期運転を想定する場合には、監視試験片再生に加えて、より小型化する事で監視試験片データ数を十分に確保すべく、使用済試験片の小型化再生や監視試験計画の高度化等の試験片の有効活用や、その試験結果のデータ検証等について検討する必要がある。

③照射脆化予測式の適用上限の見直し（JEAC4201）

今後のさらなる長期運転を想定する場合に、適用上限を超える照射量を受けるプラントが現れる可能性があり、必要に応じてJEAC4201の適用範囲上限の拡大に資する必要がある。



今回は①照射脆化評価手法の継続的な高度化のうち、**JEAC4206**についてご説明。